



KEK研究施設見学の様子

## 未来の科学者を育成

市教育委員会では、生徒の科学に対する興味や関心を高めることと、科学的な知識や思考力などの向上を目指し「中学生科学体験研修」を行っています。同研修は平成15年度から始まり、ことしで10回目。市内の中



市が東北誘致に取り組んでいる「国際リニアコライダー（以下 ILC）計画」について最新情報を隔月連載します

# 希望のひかり

第6回

学生が、宇宙航空研究開発機構（JAXA）や高エネルギー加速器開発機構（KEK）といった最先端の科学技術施設を見学し、それを支える研究者の努力に触れることで、次代を担うリーダー的人材の育成を目的に実施しているものです。ことしは、1月7日から9日までの3日間の日程で研修を実施。市内の中学生21人が参加しました。

同研修の報告会が1月25日、江刺総合支所で行われ、生徒たちがその成果をテーマ別に発表。宇宙ステーションや惑星探査機などで世界が目するJAXAや、素粒子の解明で地球や人類の未来をさらに追及するKEKなどで行った研修の様子を画像で示しながら発表しました。

今回、研修に参加した生徒は11月6日から12月19日までの間に、事前研修を4回実施。4つの班に編成し、それぞれグループごとにテーマを絞り込んで研修に臨みました。



グループごとに研修の成果を発表

## interview



田原中学校校長  
岩 瀨 進 団長 (55)

生徒たちは意欲的に研修してきました。日本の最先端科学研究施設JAXAやKEKで研修したことは貴重な経験であり、今後の人生においていい刺激になったと思います。

東北にILCが誘致され、今回研修した生徒が関連施設で働くことができればと思っています。



水沢南中学校2年  
切金 唯希さん

以前から科学に興味を持っていました。研修に参加して普段見ることのない研究施設を見学でき、とても感激しました。

私の将来の夢は、薬の開発に携わることです。ILCの東北誘致が実現し、地元さまざまな研究施設ができるといいですね。



前沢中学校2年  
佐々木 美紅さん

KEKで小野教授からお話をいただきました。地元出身の研究者が、日本における最先端科学の現場で活躍しているということを誇りに思います。私もそのような施設で働いてみたいと感じました。

ILC誘致が実現し、世界を代表する施設がこの地に誕生することを願っています。

# 国際リニアコライダー(ILC) シンポジウム in おうしゅう

ILCの誘致が実現することにより、地域の活性化が大きく期待されます。このILCが出来ることによる市の未来像を、市民の皆さんと共に考え、語り合うためにシンポジウムを開催します。  
皆さんの参加をお待ちしております。

■日時= **3月9日(土)** 午後1時30分～4時

■場所=江刺体育文化会館(ささらホール)

■内容=①講演「ILCができれば？」

ILC国際共同設計チームアジアディレクター  
高エネルギー加速器研究機構(KEK)名誉教授  
横谷 馨 氏

②パネルディスカッション「ILCでこんな奥州市を創りたい！」

・パネリスト(予定)

小沢 昌記 氏(奥州市長)、大平 尚 氏(県首席ILC推進監) ほか

※パネリストは他に、市内の学生、関係機関・団体から数名を予定しています

■参加費=無料

■問い合わせ=本庁広域連携推進室(内線412・417)

JAXAでは降旗弘城先生の国際宇宙ステーションと宇宙飛行士についての講演、KEKでは宇宙線を観測できる霧箱の作成と「先輩から学ぶ会」と題して、本市出身の小野正明教授の講演を聞きました。それぞれの施設見学も行い、最先端の技術を実感することができました。  
生徒たちは、科学の最先端技術に圧倒されながらも、人類(地球)に

とってこれらの研究は重要であると感じていました。また、専門的な知識や科学を追求する研究員の情熱に触れることで「学ぶこと」に対する意識がより強いものに変化したようです。  
生徒たちがこの研修を通して得たものを、これからの学校生活や自らの進路、将来の夢の実現などに生かしていくことを期待します。

## 外国人市民も期待

国際交流協会の主催による「国際リニアコライダー研修会」が1月19日、奥州宇宙遊学館で開催されました。ILCの国際共同設計チーム・アジア地域ディレクターである横谷馨氏(KEK名誉教授)を講師に招き「ILCって何、なぜILC」と題し、全て英語による講演が行われました。素粒子物理学の基礎知識や加速器が発達した過程、ILCの必要性などについて詳しく解説。市内外に在住する外国人12人と県立水沢高校の生徒や一般市民など約60人が聴講しました。

参加者した外国人市民から「日本以外にも候補地があるのか」「地震や電力不足の影響は大丈夫か」などの質問が出され、それに対して講師は「東日本大震災で地上では大変な被害を受けたが、仙台市の地下鉄などの地下施設は大きな被害を受けなかった」と説明しました。また、水沢高校2年の千葉裕矢さんは「ILCに対し、化学者はどう携わることになるのか」と英語で積極的な質問。講師から「超伝導技術など、ILCでの研究と化学は幅広く関係がある」と回答を受けました。研修会終了後に千葉さんは「とても興味深く楽しい講演でした。私は界面化学に

興味があり、特に深く勉強をしています。自分が目指している分野もILCに関連があり、将来的に役立つことがこの研修会で理解できました。いつかノーベル化学賞を取れるよう、さらに勉強を頑張っていきたいです」と自らの夢を語ってくれました。  
ILCが誘致されると、さらに外国人市民が増えます。行政と市民が共に手を取り合い、世界中の人たちとの多種多様な文化や習慣に対応するための土壌を構築していきましょう。



映像を見ながら講師の話に耳を傾ける